

●三位一体後第十主日

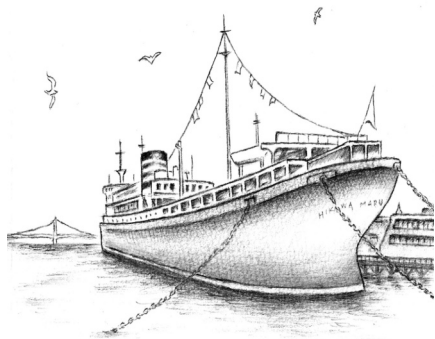
泉のほとり

今月の詩編「第百十一編」

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

主の賛美は永遠に続く。



ためらわないで行きなさい

ローマ帝国に属する百人隊長コルネリウス。異邦人でありながらイスラエルの神を恐れ、絶えず祈りをささげ、多くの施しをしていました。自分の財産から惜しみなく分け与え、同胞やユダヤ人を分け隔てなく助け、家族や部下をも信仰へと導いていました。どこにいても、誰に対しても良いわざを為す、誠実な歩みを為していたのです。律法上、彼のような異邦人は「汚れた人」とされ、外見上は神の民ではありませんでしたが、神は彼のうわべではなく純真な「心」をご覧になられていたのです。天使を遣わし、「コルネリウス、あなたの祈りと施しは届いた。ペトロを招きなさい」と告げられました。

その翌日、ペトロはヤッファの屋上で祈っている最中に幻を見ました。天から降りてきた布の中に、律法で禁じられた「汚れた動物」を含むあらゆる生き物がおり、神から「屠つて食べなさい」と命じられたのです。ペトロは「汚れたものは食べたことがありません」と拒みますが、「神がきよめたものを、きよくないと言ってはならない」との御声が響きました。

彼はかつて主イエスから「人を汚すのは外から入る食物ではなく、人の中から出る悪しき心である」と教えられ、十字架を通して自分自身の悪しき心が碎かれる経験もしていました。これまでの経験を通して、食物ではなく、人の中から出る悪しき心が神の前に汚れと理解はしていたと思います。それでも幼い時から食物規定を守り続けてきたペトロ。神から三度「食べなさい」と命じられてもためらい続けていたのです。

幻の意味を思い巡らしていると、コルネリウスの使いの者たちが到着します。聖霊から促されたペトロは彼らと対面し、異邦人であるコルネリウスが神を恐れ、ユダヤ人からも評判の良い正しい人であると聞きます。これらの出来事を通して、ペトロはついに幻の意味に目が

開かれました。神は、人のきよさを外から入る食物や外見で判断されない。自分が異邦人を「汚れている」とみなし、うわべで人を判断してはならないのだと悟ったのです。

そのしるしとして、ペトロは当時ユダヤ人が交わりを持たなかった異邦人をためらわずに家に迎え入れ、食卓を共にします。彼らと同じ空間で一日を過ごし、深く交わる中で、ペトロは立派な肩書きを持たない彼らが、神の御前をきよい心で歩んでいることをはつきりと見たのです。

わたしたちが心に留めていきたいことは、神の御前における人のきよさは、うわべや肩書きによるのではなく、人の「心」によるといことです。今日、ペトロはこの御心を深く心に刻みました。神は、外見上は異邦人であっても、神を恐れて正しいことを為すコルネリウスの心を喜び、彼の祈りや思いを全て知っておられました。そして彼らの心をさらにきよめるために、福音と聖霊を届けようとされたのです。

神が注目しておられるのは、人の外側ではなく内なる心です。そして神は、本来神の民ではなかったわたしたちのために、御子イエスと聖霊をお与えくださいました。それは、わたしたちの心をきよめ、悪しき心のない完全な良い心とするためです。わたしたちも、この御心をためらうことなく、真つ直ぐに受け入れていきましょう。そして、外見で人を判断することから身を避け、自分を飾ることなど外側の美しさに目を向けるのではなく、神が見ておられる自分の心に目を向けましょう。日々の歩みの中で、主イエスと聖霊のお働きによって心がきよめられていくことを願ひ求め、コルネリウスのように真実に誠実に生きる、きよく純真な心を目指して歩んでいきたいと思ひます。

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○明日一〇日(月)午前一〇時から地下ホールで、聖書通読会を行います。「ペトロの手紙一」を読みます。どうぞご参加ください。

《ぶどうの会より》

ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《教会事務所より》

一一日(火)～一五日(土)まで教会事務所、附属幼稚園共に夏季休暇に入ります。期間中は教会内にお入りいただけませんので、宜しく願います。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十一篇】

（司・会）

ハレルヤ。

わたしは心を尽くして主に感謝をささげる

正しい人々の集い、会衆の中で。

主の御業は大きく

それを愛する人は皆、それを尋ね求める。

主の成し遂げられることは栄え輝き

恵みの御業は永遠に続く。

主は驚くべき御業を記念するよう定められた。

主は恵み深く憐れみに富み

主を畏れる人に糧を与え

契約をとこしえに御心に留め

御業の力を御自分の民に示し

諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

御手の業はまことの裁き

主の命令はすべて真実

世々限りなく堅固に

まことをもって、まっすぐに行われる。

主は御自分の民に贖いを送り

契約をとこしえのものと定められた。

御名は畏れ敬うべき聖なる御名。

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

（司・会）

主の賛美は永遠に続く。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「5000人の給食」

聖書 ヨハネ6章5～15節

説教者 宮間 彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「神は天地を創造された」

聖書 創世記1章1～13節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 11番 327番

説教 「氣を落とさずに祈る」

聖書 ルカ18章1～8節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 87A番 313番
説教 「祈るときには」
聖書 マタイ6章5～8節(新約 P.9)
司式 石川 一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「4台のハープシコードとオーケストラのための
協奏曲より」 (第1楽章アレグロ) J.S.バッハ
(原曲はA.ヴィヴァルディ)

○讃美歌87A番

1. めぐみのひかりは わがゆきなやむ
やみ路を照らせり 神は愛なり
われらも愛せん あいなる神を

2. うき雲おおえど 笑顔の笑みは
さやかに照りいず 神はあいなり
われらも愛せん あいなる神を

3. うれいのときにも のぞみをあたえ
なぐさめたまえり 神はあいなり
われらも愛せん あいなる神を

4. ものみなうつれど めぐみのひかり
とわにぞかがやく 神はあいなり
われらも愛せん あいなる神を
アーメン

○讃美歌313番

1. この世のつとめいとせわしく
ひとのこえのみしげきときに
うちなる宮に のがれゆきて
われはきくなり 主のみこえを

2. 昔主イエスの 山に野べに
ひとをばさけて ききたまいし
いともとうとき あまつみこえ
今なおひびく わがところに

3. 主よ さわがしき 世のちまたに
われをわすれて いそしむまも
ちさきみこえを きぎわけうる
しずけきころ あたえたまえ

アーメン

聖餐曲「アニュス・デイとサンクトゥス」 (小ミサより)
G.7オーレ

後奏曲「優しく主は呼びたもう」 デニス.R.ジョンソン